

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

技術開発課題の紹介について

当センターでは、現在6つの技術開発課題に取り組んでいますが、一部ご紹介します。

1. 低密度植栽試験（平成26年度～平成29年度）

林業の低コスト化にむけた技術開発を推進する中で、低密度植栽は、苗木や植栽費用の削減だけでなく、保育間伐の省略等、全般的な費用の縮減につながるが見込まれます。また、育成課程において一定程度の広葉樹の侵入も想定されることから、生物多様性の確保、多様な森づくりにも効果があると思われます。

このため、植栽木の生存率や成長・材質への影響、生物多様性の程度を明らかにするため、スギ、カラマツの低密度植栽を検証しています。また、併せて下刈り省略試験（毎年、隔年、筋刈り）を実施しています。

今年度がこの技術開発課題の最終年になり、完了報告する予定です。

2. ヒバコンテナ苗による低コスト育林手法の開発（平成27年度～平成29年度）

ヒバのコンテナ苗の育苗、植栽、育林方法の実証試験を行い、コンテナ苗の改良と、ヒバのコンテナ苗による植栽、育林方法の効率化の手法の開発を行っています。

今年度がこの技術開発課題の最終年になり、完了報告する予定です。

3. 海岸防災林の機能強化 （平成29年度～平成33年度）

既存の研究報告では海岸林の樹種転換の試験の立地条件は、主に海岸からの距離で規定されている場合が多く、耐潮性等の面で各樹種の適正は明確になっているとは言えません。風速、飛来塩分と合わせて樹種の活着、成長状態等を調査し、各広葉樹の特性を把握します。風向、風速は微地形等により変化しますが、各樹種の特性を把握しておけば、汀線からの距離だけではなく、海風の影響が大きい箇所は耐潮性を優先し、小さい箇所は成長を優先するなど、立地条件に適合した樹種選定が迅速、確実に行うことができ、ソーニング、被害前の準備、被害地の早期復旧、被害防除経費の軽減が期待できます。

今年度からの新規技術開発課題になり、今月から調査について本格的に開始する予定です。

◆森林技術・支援センター 安全への取組状況

平成29年度健康安全管理実施計画における重点目標は、

- 1 安全管理体制の充実強化と安全意識の高揚
- 2 交通事故の防止
- 3 周囲の状況確認危険予知能力の向上
- 4 職業病疾病の予防と健康管理の充実
- 5 蜂刺され災害の防止

となっております。

特に、技術開発課題における調査業務が多いことから周囲の確認及び足場、足元の確認の徹底や交通事故も多発していることから安全運転に徹し、今年度も無災害を目指すことにしております。（無災害4000日突破）

【担当：副所長】

新任のご挨拶

加サヲ ケイ仔
副所長 小笠原 啓一



平成29年4月1日付けで森林整備部 森林技術・支援センターの副所長を拝命し着任しました小笠原です。前勤務地の弘前市から引き続き津軽地方での勤務となります。よろしくお願いいたします。

森林技術・支援センターでは、低コスト化林業に向け、東北局管内に試験地等を設置し、低密度植栽や大苗植栽等の技術開発を行い国有林野の管理経営、民有林への普及・支援に取り組んでおります。

また、センターのある青森県中泊町はヒバを主体にした天然林が広がっています。県名の『青森』という名は、ヒバの「青々とした森がっらなっている」からとったものとされています。青々とした森を後世に残せるよう、ヒバ天然林施業、ヒバコンテナ苗による低コスト育林手法の開発に取り組んでいきたいと思っておりますので、関係機関並びに各署の皆様には何卒ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

森林技術普及専門官

利加 トコ
堀川 敏行（盛岡署駐在）



平成29年4月1日付け人事異動により、森林整備部 森林技術・支援センター 森林技術普及専門官（盛岡森林管理署駐在）を拝命いたしました堀川です。主な担当は低密度植栽試験地調査等の現地対応になります。

林業の低コスト化に向けての取組は、植付から間伐までに関係してくる大変重要な技術開発課題であり、関係各機関と密な連携をとりながら調査に取り組んで参ります。

関係者の皆様には、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

森をさんぽ

増田です！



森林技術専門官
増田 悠介

東北の長い冬が終わり、今年も春の季節がやってきました。雪解けが進みはじめ、里山ではカタクリ、キクザキイチゲ、オトメエンゴサク、キバナノアマナ、スミレサイシンなどのスプリング・エフェメラル（春の妖精）が咲いています。その春の妖精に誘われて、チョウたちが優雅に飛んでいます。

数年前、山形県に住んでいたときに植物の写真を撮影するために里山へ行ったのですが、植物の写真を撮っていると、植物の近くで羽を広げ日光浴をしているチョウが目につきました。



よくよく目をこらしてみると、春の女神ギフチョウで、慌てて植物に向けていたレンズをギフチョウに向けシャッターをきりました。

東北ではギフチョウの他にもヒメギフチョウという近縁種も生息しています。春の里山に出かける際は春の妖精とともに春の女神に出会いに行ってみてはいかがでしょうか。

編集後記

平成29年度がスタートしました。今年度業務打合せ行脚も既に始まり、一度の走行距離が1000kmを超えました。4月の異動で、職員も変わり人数も減りました。少数精鋭(?)で進めて行くことになり、関係各位のご協力よろしくお願いいたします。季節の変わり目、皆様には体調管理に気をつけて下さいね。